

論文審査の要旨

報告番号	理工研 第507号		氏名	牧野暁世
審査委員	主査	木方十根		
	副査	二宮秀典	柴田晃宏	
<p>学位論文題目 景観まちづくりに向けた色彩計画に関する研究 -地域特性を活かした景観施策への展開- (A Study on color planning for citizen-lead landscape development -Drawing on local identity to develop landscape policy-)</p> <p>審査要旨</p> <p>牧野暁世氏より提出された学位論文及び論文目録等を基に学位論文審査を実施した。本論文は景観まちづくりに向けた色彩計画に関する景観施策の展開のあり方を論じたもので、序と結を含む全文六章および資料編より構成されている。</p> <p>「はじめに」(序章)では、研究の目的・対象・方法と、景観施策研究、景観計画研究、色彩計画研究、景観まちづくり(合意形成論等)研究といった各分野に及ぶ関連研究の整理に基づく、本研究の位置付けを示している。本研究は上記各分野をまたぐ学際的研究であること、すなわち施策論、計画論であるとともに、施策の運用に向けた具体的提案を含む実践的研究であることを、その特色として述べた。</p> <p>第1章では、景観法に基づく景観計画における色彩計画の概要と特徴を論じた。景観法制定以後、全国的に色彩基準の制定が進んだが、地域に即した色彩基準のあり方には議論の余地があることを述べた。</p> <p>第2章では、地域特性を活かした色彩計画の策定および運用の方向性を検討した。そのために先進地域(札幌市等4都市・地区)と一般的な地域(出水市)における色彩計画を比較した。その結果、先進4地域のうち2地域の合意形成段階が「自主管理段階」に進展していたが、出水市では「協働段階」にあること、とくに運用面における合意形成の進展に差が顕著であることを明らかにした。</p> <p>第3章では、上記先進地域の一つである札幌市における『札幌の景観色70色(以下、札幌景観色)』が札幌市の景観まちづくりの展開に及ぼした影響を考察した。その結果、札幌景観色を中心的に策定したのは景観まちづくり組織であったこと、札幌景観色は地域の実状に応じて改善され、安定的な運用が図られたこと、札幌景観色に基づく地域独自色の選定や市民が主体となった景観まちづくり活動といった展開が見られたことを明らかにするとともに、色彩の安易な改変といった課題が見られることも指摘した。</p> <p>第4章では、鹿児島県を対象とした『かごんまの色』の策定を通じた実践的研究を行った。本章で策定した色彩計画には、地産品の付加価値の向上、大学による管理体制の構築、景観まちづくりへの萌芽的展開など、一定の成果が得られた一方、行政の施策への展開に対する課題も明らかとなった。</p> <p>「結」では、上記の成果をまとめ、地域特性を活かした色彩計画の特色(第一節)を実証的な結論として述べたうえで、それに向けた色彩計画の策定および運用の方向性の提示(第二節)、景観まちづくりに向けた色彩計画の展開モデルと具体的提案(第三節)を行い、実践的研究の成果とした。</p> <p>以上本論文は、景観まちづくりに向けた色彩計画について、施策論、計画論、そして景観まちづくり論として多角的な検討を行い、提案を含む実践的な成果を導いたもので、提案対象となった鹿児島県を含む各地における地域特性を活かした景観施策の発展に寄与するものである。</p> <p>よって、審査委員会は博士(工学)の学位論文として合格と判定する。</p>				